

レジメン登録フォーマット

申請年月日	2021年3月8日		使用開始日		
登録診療科	泌尿器科		申請医師	吉田 栄宏	
レジメン名	バベンチオ維持療法				
疾患名	尿路上皮がん		適応の備考	根治切除不能な尿路上皮がんにおける化学療法後の維持療法	
適応分類	進行・再発				
1コース日数	14	日間	総コース数	有効な限り	コース
				催吐性リスク	最少度
抗がん剤投与量・投与日 〓バベンチオ day1					
治療スケジュール・投与日程（投与日は●） (day)					
投与順	ルート・方法	薬剤名	投与量	投与時間	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14
1	主ルート	生食50mL	1 本 / body	5 分	●
	点滴静注		/		
2	主ルート	生食250mL	1 本 / body		●
	点滴静注	バベンチオ	10 mg / kg	60 分	●
0.2μmのインラインフィルターを使用し投与する					
3	主ルート	生食50mL	1 本 / body	5 分	●
	点滴静注		/		
4	経口投与	レスタミンコーワ錠	5 錠 / body		●
		カロナール錠300mg	2 錠 / body		●
バベンチオ投与の30分前					

※並行して投与する場合は、コメントを入力する。(例:Rp2とRp3を同時に投与開始する。)

【投与上の注意】

バベンチオ:前投薬としてレスタミン5錠、カロナール2錠の内服が必要。

バベンチオ:0.2μmのインラインフィルターを使用し投与する。

バベンチオ:希釈後は4時間以内に投与を終了すること。

【減量基準】

バベンチオ

副作用	程度*	処置
間質性肺疾患	Grade 2の場合	Grade 1以下に回復するまで休薬する。
	Grade 3、4又は再発性のGrade 2の場合	本剤の投与を中止する。
肝機能障害	AST若しくはALTが基準値上限の3～5倍、又は総ビリルビンが基準値上限の1.5～3倍に増加した場合	Grade 1以下に回復するまで休薬する。
	AST若しくはALTが基準値上限の5倍超、又は総ビリルビンが基準値上限の3倍超に増加した場合	本剤の投与を中止する。
大腸炎・下痢	Grade 2又は3の場合	Grade 1以下に回復するまで休薬する。
	Grade 4又は再発性のGrade 3の場合	本剤の投与を中止する。
甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症、副腎機能不全、高血糖	Grade 3又は4の場合	Grade 1以下に回復するまで休薬する。
心筋炎	新たに発現した心徴候、臨床検査値又は心電図による心筋炎の疑い	休薬又は投与中止する。
腎障害	Grade 2又は3の場合	Grade 1以下に回復するまで休薬する。
	Grade 4の場合	本剤の投与を中止する。
infusion reaction	Grade 1の場合	投与速度を半分に減速する。
	Grade 2の場合	投与を中断する。患者の状態が安定した場合 (Grade 1以下) には、中断時の半分の投与速度で投与を再開する。
	Grade 3又は4の場合	本剤の投与を中止する。

副作用	程度*	処置
上記以外の副作用	Grade 2又は3の場合	Grade 1以下に回復するまで休薬する。
	・ Grade 4又は再発性のGrade 3の場合 ・ 副作用の処置としての副腎皮質ホルモン剤をプレドニゾン換算で10mg/日相当量以下まで12週間以内に減量できない場合 ・ 12週間を超える休薬後もGrade 1以下まで回復しない場合	本剤の投与を中止する。

※：GradeはNCI-CTCAE（Common Terminology Criteria for Adverse Events）v4.0に準じる。